

仙台市子ども会連合会

平成26年度 仙台市子ども会育成者研修会

平成26年12月1日（月）泉区役所東庁舎大会議室において、平成26年度仙台市子ども会育成者研修会が開催され、市子連から16名、宮城子連から8名、秋保子連から1名、泉子連から51名の計67名の参加がありました。

今回の研修会は、子ども会活動を行う上での安全意識の向上を図る目的として、防災士・減災コーディネーターでわしん倶楽部の田中勢子氏と福田宏子氏並びに仙台市消防局宮城野消防署予防課太田千尋主幹を講師に迎え、防災クロスロードゲームを中心に進められました。

1. 開会・あいさつ

仙台市子ども会連合会 会長 河村 次男



2. 講師紹介およびクロスロードゲームのルール説明



(左)

防災士・減災コーディネーター

田中 勢子 氏 (わしん倶楽部代表)

(右)

防災士・減災コーディネーター

福田 宏子 氏 (わしん倶楽部)

クロスロードゲームとは？

災害時に目の前で危険なことや困ったことが発生したとき「する！」「しない！」の選択を強いられます。これが分岐点＝クロスロードです。

このゲームは阪神大震災の際に、神戸市職員と市民が抱えたジレンマをもとに問題が作られています。問題に対し参加者全員が「YES」「NO」のカードを出します。次に理由を全員に説明します。次にグループで「YES」と「NO」の問題点を考えることにより答えの裏側のリスクを考えます。

このグループワークは参加者相互のコミュニケーションを活性化し、地域での自助・共助の意識を高め、連携を強化するヒントを探るためのものなのです。

そのため設問に対する正解はありません。「各個人が考えていること」が正解です。

発表しあい、共有しあい、対策を考える事により防災・減災に関する取り組みを進めるきっかけとします。

～そのためのルール～

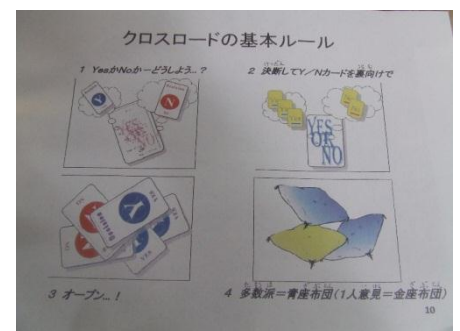
- ① 人の意見をよく聞く
- ② 人の意見をはっきり言う
- ③ 自分の意見をはっきり言う
- ④ 自分の意見を押し付けない



3. 防災クロスロードゲーム ～子ども会バージョンの実施～

準備物：「YES」と「NO」のカード、問題が書いてあるカード、まとめ用の用紙

1. 奇数5～7名のグループをつくる
2. 班長と記録者を決める
3. 全員に「YES」と「NO」のカードを一組ずつくばる
4. 司会者が問題を出したら答えを考え、答えのカードを自分の前に裏返しに置く
5. 掛け声とともに一斉にカードを表に返す
6. 一人ずつ自分がその答えを選んだ理由を話す
7. グループでYESの問題点、NOの問題点を話し合い、まとめ用紙に記入します。



一つ目の設問

「子ども会役員として15人の子ども達をキャンプ場に引率中に大雨で帰り道が寸断。キャンプ場には避難できそうなバンガローが一つあるが南京錠がかかっている。鍵を壊して中に入るか？」



二つ目の設問

「いち保護者として。大雨警報が出て子どもを塾に迎えに行くと、子ども同士は仲が良いが親同士は面識のない友達。友達は他人の車に乗ることを禁じられている。連れて帰るか？」



6対1や7対0に分かれる班もあり、4対3の半々に分かれる班もありました。

三つ目の設問

「被災者として。自宅が半壊で避難所へ。我が家には3日分の食料がある。周りは準備していない人が大半の中でそれを開くか？」



4. 防災クロスロードゲームを用いた防災意識の向上について



講師

仙台市消防局宮城野消防署予防課

太田 千尋 主幹

「救助現場にて。心肺停止の子ども、助かりそうな両親のどちらを先に助けるか。」というクロスロードゲームの設問から、心臓マッサージの重要性、さらには緊急持ち出し袋について大切なことを救命救急士としての立場からわかりやすくお話くださいました。

5. 閉会

クロスロードゲームというのは初めてでしたが、とても考えさせられる内容が多かったです。突然の災害に備え、家族で話し合っておかなくてはならないことに気づかされました。太田先生のお話、とても面白く、引きつけられました。非常袋の説明もとても参考になり、早速役立てたいと思います。

今日は色々な状況での考え方を学ぶ機会になり、とても勉強になりました。

ジャッジのない答え、考えを共有することは大切だと思ったし、今後の生活に活かしたいと思いました。今日はどうもありがとうございました。

参加者の感想

Yes/Noの判断がとても難しいものですが、考えさせられました。

自分だけではない視点がいろいろあり、大人数で意見が聞けて話し合いの大切さを感じました。子ども会と言うより少し大人向けかとも思いました。

クロスロードゲーム、皆さんのそれぞれ違う意見が聞けて勉強になりました。YesでもNoでも間違いではなく、難しかったです。

子供たちがこのゲームをしているのを見てみたいです。

今回の研修会ではたくさんの皆様に参加いただきました。防災クロスロードゲームを通じて、互いに違った意見を交換するなど新たな見方・発見があり今度の活動に活かしていただけるものになったのではないのでしょうか。ご参加・ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。